



FOR Extra JAPAN SOCCER

[Jリーガーも体感]

“toto”が変える 地域スポーツ。

今年、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブは toto助成金を受けて、クラブハウスの新設やグラウンドの芝生化を行なった。地域住民も巻き込んだ新たな総合型地域スポーツクラブの在り方を、紹介する。

福田剛=文 text by Tsuyoshi Fukuda
近藤俊哉=写真 photographs by Toshiya Kondo

第24節終了時点で勝点39の5位と優勝を狙える順位につけているセレッソ大阪。2012年は14位(勝点42)、2011年は12位(勝点43)と過去2年間の低迷時期を考えると、大躍進と言える。ボランチとしてチームを支える扇原貴宏は、好調の理由をこう語る。

「1つ上の学年に螢君(山口螢)、丸君(丸橋祐介)、その上には唯一郎君(柿谷曜一朗)

とユース出身の近い世代がお互いに刺激し合いながらプレーできているのが、いい流れを生んでいると思います。環境面で言えば、新しいクラブハウスとグラウンドができたことも大きいですね。練習が終わるとすぐに水風呂に浸かってアイシングできたりと、設備が充実したおかげで、疲労が溜まりにくくなりました」

今年の1月、セレッソ大阪は大阪市此花区にある舞洲に練習拠点を移した。青々とした芝が一面に広がる天然芝グラウンド、サッカーはもちろんラグロスやラグビーの公式戦が開催できる人工芝のグラウンド、そして最新の設備が揃うクラブハウス……。セレッソ大阪の躍進を支えるこの施設は、専用の練習場ではない。一般の人がスポーツをする場所としても、開放されているのだ。

ここを管理、運営する一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブは、市民スポーツ振興と地域社会への貢献を目的として2010年に誕生した。代表理事の宮本功氏はクラブ設立の経緯をこう振り返る。

「2006年、セレッソ大阪はJ2に降格し、本来クラブがやらなくてはならないサッカーやスポーツの普及活動を実施するのが、経営的に難しい状況になっていました」

Jリーグにはスポーツで日本をもっと幸せな国にするために、「地域に根差したスポーツクラブ」を核にスポーツ文化の振興活動に取り組む『Jリーグ百年構想』がある。

「理念を実現するためには5年先、10年先のことを考えて進めなくてはならない。そこで海外の事例を集め、考え出したのがスポーツ振興に重点を置いた組織を作ることでした」とはいえ、スポーツクラブを作っただけでは経済的な問題は解決しない。そこで活用されているのが、toto助成金である。セレッソ大阪スポーツクラブの場合、主に「施設の整備」と「運営活動」で利用されている。

「施設の整備では、天然芝グラウンド、人工芝グラウンド、そしてクラブハウスの建設。活動面では、スポーツクラブの活動を支えるスタッフの育成や大阪市内の幼稚園や小学校でサッカー教室を開いた際に配る冊子の制作といった広報活動に使っています」

セレッソ大阪は、1997年からサッカースクールを開くなど、地域のスポーツ振興に力を入れているクラブであった。セレッソ大阪スポーツクラブが運営するサッカースクー



昨夏のロンドン五輪で活躍し、A代表定着も期待される扇原貴宏。後ろの建物が今年新設されたセレッソハウス。地域住民も様々な形で活用できる

ルには、現在のトップチームで活躍する選手も通っていた。扇原もその一人だ。

「小学校3年生の頃から堺泉北校に通ってました。地元で強いチームが無くて、スクールで上手い選手と一緒に練習できるので、すごく楽しかった思い出があります」

トップチームの選手となった今、スポーツクラブの活動をどう感じているのだろうか。

「サッカーを通じて生まれたtoto。その助成金を活用したこの場所を、地域の人達にも存分に使ってもらえれば嬉しいですし、多くの人がスポーツをするようになれば、サッカーだけではなく、いろいろなスポーツが盛り上がる。僕たち選手がその力になれるのであれば、もっとサッカーをがんばろうという励みにもなります」

大きな一歩を踏み出したセレッソ大阪スポーツクラブ。今後どう発展していくのだろうか。宮本氏は言う。

「私達には、セレッソ大阪で築いたスポーツクラブの運営ノウハウがあります。それをうまく活用しながら、30年後、40年後に地域の人から愛されるスポーツクラブになるように、toto助成金の助けを借りながら一歩一歩着実にがんばっていきたいと思っています」

「2006年、セレッソ大阪はJ2に降格し、本来クラブがやらなくてはならないサッカーやスポーツの普及活動を実施するのが、経営的に難しい状況になっていました」

Jリーグにはスポーツで日本をもっと幸せな国にするために、「地域に根差したスポーツクラブ」を核にスポーツ文化の振興活動に取り組む『Jリーグ百年構想』がある。

「理念を実現するためには5年先、10年先のことを考えて進めなくてはならない。そこで海外の事例を集め、考え出したのがスポーツ振興に重点を置いた組織を作ることでした」とはいえ、スポーツクラブを作っただけでは経済的な問題は解決しない。そこで活用されているのが、toto助成金である。セレッソ大阪スポーツクラブの場合、主に「施設の整備」と「運営活動」で利用されている。

「施設の整備では、天然芝グラウンド、人工芝グラウンド、そしてクラブハウスの建設。活動面では、スポーツクラブの活動を支えるスタッフの育成や大阪市内の幼稚園や小学校でサッカー教室を開いた際に配る冊子の制作といった広報活動に使っています」

セレッソ大阪は、1997年からサッカースクールを開くなど、地域のスポーツ振興に力を入れているクラブであった。セレッソ大阪スポーツクラブが運営するサッカースクー

ルには、現在のトップチームで活躍する選手も通っていた。扇原もその一人だ。

「小学校3年生の頃から堺泉北校に通ってました。地元で強いチームが無くて、スクールで上手い選手と一緒に練習できるので、すごく楽しかった思い出があります」

トップチームの選手となった今、スポーツクラブの活動をどう感じているのだろうか。

「サッカーを通じて生まれたtoto。その助成金を活用したこの場所を、地域の人達にも存分に使ってもらえれば嬉しいですし、多くの人がスポーツをするようになれば、サッカーだけではなく、いろいろなスポーツが盛り上がる。僕たち選手がその力になれるのであれば、もっとサッカーをがんばろうという励みにもなります」

大きな一歩を踏み出したセレッソ大阪スポーツクラブ。今後どう発展していくのだろうか。宮本氏は言う。

「私達には、セレッソ大阪で築いたスポーツクラブの運営ノウハウがあります。それをうまく活用しながら、30年後、40年後に地域の人から愛されるスポーツクラブになるように、toto助成金の助けを借りながら一歩一歩着実にがんばっていきたいと思っています」



FOOT×BRAIN

■放送日時 テレビ東京系列 毎週土曜日 よる11:05～
10月5日より、よる11:30～に変更になります
BSジャパン 毎週日曜日 深夜0:35～

■MC 勝村政信 杉崎美香

■番組コンセプト
「日本サッカーが強くなるためにできることすべて」。フット・ブレインは、スポーツだけでなく、ビジネス・科学・芸術などあらゆる頭脳(BRAIN)を、日本サッカーが強くなるためのヒントとして提言していくサッカー番組です。

■Twitter&Facebookに熱い意見を! <http://www.tv-tokyo.co.jp/footbrain/>



9月7日OAでは「スポーツとお金」をテーマに、toto助成金に注目。ロンドン五輪で獲得した全38個のメダルのうち、実に35個の競技にtoto助成金が使われていた。番組では、セレッソハウスの他にも、少年スポーツクラブのマイクロバス購入補助、小学校の校庭の芝生化、年長者も楽しめる競技支援など、幅広く事例を紹介した